静岡県西部地域における3歳児のアトピー性皮膚炎の実態 ―第1報　食習慣と生活習慣に関する検討―

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本小児保健協会 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 甲田, 勝康, 中村, 留美子, 戸川, 可奈子, 宮原, 時彦, 坪井, 宏仁, 竹内, 宏一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/418

報　告

静岡県西部地域における3歳児のアトピー性皮膚炎の実態

―第1報　食習慣と生活習慣に関する検討―

甲田　勝康[1)]，中村留美子[1)]，戸川可奈子[1)]
宮原　時彦[1)]，坪井　宏仁[1)]，竹内　宏一[1)]

〔論文要旨〕

アトピー性皮膚炎の発症には食物因子、生活環境因子等が関与するが、今回、静岡県西部地区の3歳児2,403人について、アンケートを用い、食および生活習慣の実態調査を行った。

アトピー性皮膚炎の既往歴について「あり」と答えたものは全体の25.3%であった。母にアトピー性皮膚炎の既往歴がある場合、子供がアトピー性皮膚炎を持つ割合が高かった（66.7%）。アトピー性皮膚炎の既往歴があるものは起床時刻が遅く、屋外で遊ぶ時間が少なかった。食品の摂取頻度については、アトピー性皮膚炎の既往歴があるものは、卵類の摂取が少なく、逆に魚類の摂取が多かった。本疾患対策のため、各種食物選択に関する情報が流布されているが、アトピー性皮膚炎児を持つ母親はそれらの影響を受けている可能性が推察された。

Key words：アトピー性皮膚炎、3歳児、生活環境、食習慣

Ⅰ．目　　的

近年，アトピー性皮膚炎を中心としたアレルギー疾患は増加傾向にあるが，アトピー性皮膚炎の発症には食物因子のみならず，大気汚染物質，室内環境汚染物質，心理的環境因子など，様々な環境因子が関与すると報告されている[1)]。今回我々は，このような環境因子を分析するにあたり，今後のあり方を検討する上での基礎的資料とする目的で，その実態調査を行った。

Ⅱ．方　　法

調査の対象は，静岡県西部地区（2市6町）において，平成5年4月から平成6年6月の間に3歳児健康診査の対象となった2,722名およびその保護者である。このうち3歳児健康診査を受診したものは2,575名（男児1,281名，女児1,304名）であり，受診率は94.6%であった。調査はアンケートを用いて行った。アンケート用紙は健康診査に先立って，あらかじめ保護者に郵送し，健康診査会場にて全員に面接し，未記入欄や不明欄についての確認を行ったうえで回収した。質問の内容は，「今までに『アトピー

Epidemiological Study on the Actual Condition of Atopic Dermatitis in 3 Years Old Children in the Western Region of Shizuoka Prefecture
Part 1 The Meals and Daily Activities
〔8056〕
受付 96. 7.17
採用 97. 5.15

Katsuyasu KOUDA, Rumiko NAKAMURA, Kanako TOGAWA, Tokihiko MIYAHARA, Hirohito TSUBOI, Hiroichi TAKEUCHI
1）浜松医科大学 公衆衛生学教室　（職域：医師（内科），医学教官，研究職）
別刷請求先：甲田勝康 浜松医科大学公衆衛生学教室，〒431-31 浜松市半田町3600
Tel 053-435-2329　Fax 053-435-2330

性皮膚炎である』と医師にいわれたこと」(以下，「既往歴」）の有無，および生活環境に関する質問として，性別，居住地の市町別，「今までに母親が『アトピー性皮膚炎である』と医師にいわれたこと」（以下，「母の既往歴」）の有無，兄弟の有無，父の職業，母の職業，主な保育者についてである。また，生活習慣に関するものとして，起床時刻，就寝時刻，平均睡眠時間，排便回数，保育園通園の有無，体の動かし方，自宅において屋外で遊ぶ時間についても質問した。さらに，肉類，魚類，卵類，豆類，牛乳類，野菜類のそれぞれの食品の摂取頻度について，「日に2回以上」「日に1回」「2から3日に1回」「週に1回」「ほとんど食べない」のうちから1つ選択させた。アトピー性皮膚炎の既往歴について明確な回答が得られたものは2,403名（男児1,189名，女児1,214名，有効回答率93.3%）であった。

生活環境および生活習慣の統計学的検討には chi-square test for indepedence を，食品摂取頻度の検討には Mann-Whitney's U test を用い，$p<0.05$において有意性ありとした。

Ⅲ．結　　果

アトピー性皮膚炎の既往歴について「あり」と答えたものは609名で全体の25.3%であった。

生活環境と既往歴の関係をみると（表1），男女別では男児のうち既往歴「あり」と答えたものが26.5%，女児が24.2%であった。居住地区では，市部在住者のうち既往歴があるものは23.2%であったのに対し，町部在住者は28.0%と町部が有意に高かった（$p<0.01$）。母の既往歴の有無と子供の既往歴の有無についてみると，母に既往歴がある場合は66.7%の子供が既

表1　アトピー性皮膚炎の既往と生活状況との関係　　（　）内は%

質問項目		アトピー性皮膚炎 あり	なし	計	検定
性　別	男	315(26.5)	874(73.5)	1,189(100)	
	女	294(24.2)	920(75.8)	1,214(100)	
	計	609(25.3)	1,794(74.7)	2,403(100)	
市町別	市	314(23.2)	1,037(76.8)	1,351(100)	**
	町	295(28.0)	757(72.0)	1,052(100)	
	計	609(25.3)	1,794(74.7)	2,403(100)	
母親のアトピー既往症	あり	98(66.7)	49(33.3)	147(100)	***
	なし	503(22.6)	1,726(77.4)	2,229(100)	
	計	601(25.3)	1,775(74.7)	2,376(100)	
兄　弟	あり	508(25.9)	1,453(74.1)	1,961(100)	
	なし	101(22.9)	341(77.1)	442(100)	
	計	609(25.3)	1,794(74.7)	2,403(100)	
父の職業	常勤	525(25.6)	1,527(74.4)	2,052(100)	
	自営	62(23.0)	208(77.0)	270(100)	
	農林漁業	15(33.3)	30(66.7)	45(100)	
	計	602(25.4)	1,765(74.6)	2,367(100)	
母の職業	専業主婦	428(26.0)	1,221(74.0)	1,649(100)	
	有職	176(24.1)	555(75.9)	731(100)	
	計	604(25.4)	1,776(74.6)	2,380(100)	
主な保育者	父および母	526(25.3)	1,552(74.7)	2,078(100)	
	祖父，祖母，その他	76(28.6)	190(71.4)	266(100)	
	計	602(25.7)	1,742(74.3)	2,344(100)	

χ^2検定　**$p<0.01$　***$p<0.001$

表2 アトピー性皮膚炎の既往と生活習慣との関係 ( ) 内は%

質問項目		アトピー性皮膚炎 あり	なし	計	検定
起床時刻	8時前	483(24.4)	1,495(75.6)	1,978(100)	*
	8時以降	123(29.8)	290(70.2)	413(100)	
	計	606(25.3)	1,785(74.7)	2,391(100)	
就寝時刻	9時前	148(23.8)	474(76.2)	622(100)	
	9時以降	456(25.9)	1,308(74.1)	1,764(100)	
	計	604(25.3)	1,782(74.7)	2,386(100)	
睡眠時間	10時間未満	75(22.9)	252(77.1)	327(100)	
	10時間以上	532(25.8)	1,533(74.2)	2,065(100)	
	計	607(25.3)	1,785(74.7)	2,392(100)	
排便回数	1日1回以上	485(25.4)	1,427(74.6)	1,912(100)	
	2日に1回以下	120(24.9)	362(75.1)	482(100)	
	計	605(25.3)	1,789(74.7)	2,394(100)	
保育園	通っている	101(23.7)	326(76.3)	427(100)	
	通っていない	507(25.7)	1,465(74.3)	1,972(100)	
	計	608(25.3)	1,791(74.7)	2,399(100)	
体の動かし方	活発	313(25.0)	938(75.0)	1,251(100)	
	普通，活発でない	288(26.0)	819(74.0)	1,107(100)	
	計	601(25.5)	1,757(74.5)	2,358(100)	
屋外で遊ぶ時間	30分未満	76(29.6)	181(70.4)	257(100)	#
	30分以上	519(24.5)	1,599(75.5)	2,118(100)	
	計	595(25.1)	1,780(74.9)	2,375(100)	

χ^2検定 #$p<0.1$ *$p<0.05$

往歴「あり」と答え，母の既往歴がない場合(22.6%)と比較し，有意に高かった($p<0.001$)。

生活習慣と既往歴の関係をみると（表2），既往歴「あり」と答えたものは「なし」と答えたものに比べ，朝8時以降に起床するものが有意に多かった（$p<0.05$）。また，屋外で遊ぶ時間については既往歴があるものに「30分未満」と答えたものが多い傾向にあった。

食品の摂取頻度については（表3），アトピー性皮膚炎の既往歴があるものは，卵類の摂取が有意に少なく（$p<0.05$），逆に魚類の摂取は有意に（$p<0.05$）多かった。

Ⅳ．考　　察

今回用いたアトピー性皮膚炎の既往の有無についての質問項目は，平成4年度に厚生省児童家庭局が行ったアトピー性疾患実態調査（以下「H4厚生省実態調査」）で用いた項目と同じ内容であり，どちらも，「今までに『アトピー性皮膚炎である』と医師にいわれたこと」の有無についてである。この質問で「あり」と答えたものはH4厚生省実態調査が23.1%[2]，今回が25.3%とほぼ同じ値を示した。

居住地区との関係では，アトピー性皮膚炎の有病率は都市が郊外より高値を示すという内容の報告がみられるが[2~4]，今回は逆に，市部より町部に既往歴のあるものが多かった。今回の調査対象としたA市では既往歴「あり」と答えたものが765名中，166名（21.7%）と他の地域に比べ有意に低かったが（$p<0.01$），A市では従来から，学校においては養護教諭が，地域においては保健婦が，しかも両者が協力し合いながら小児成人病予防活動を行う等，健康増進に積極的に取り組んでおり[5]，このことが要因の

表3 アトピー性皮膚炎の既往と食品摂取状況との関係

( ) 内は%

質問項目		アトピー性皮膚炎 あり	なし	計	検定
肉類	日に2回以上	67(11.1)	159(8.9)	226(9.4)	
	日に1回	276(45.5)	807(45.1)	1,083(45.2)	
	2から3日に1回	230(38.0)	692(38.6)	922(38.5)	
	週に1回	27(4.5)	103(5.8)	130(5.4)	
	ほとんど食べない	6(0.9)	30(1.7)	36(1.5)	
	計	606(100)	1,791(100)	2,397(100)	
魚類	日に2回以上	38(6.3)	82(4.6)	120(5.0)	*
	日に1回	277(45.6)	748(41.8)	1,025(42.8)	
	2から3日に1回	247(40.7)	812(15.4)	1,059(44.2)	
	週に1回	31(2.1)	99(5.5)	130(5.4)	
	ほとんど食べない	14(2.3)	77(2.6)	61(2.5)	
	計	607(100)	1,788(100)	2,395(100)	
卵類	日に2回以上	14(2.3)	48(2.7)	62(2.6)	*
	日に1回	321(52.9)	1,041(58.1)	1,362(56.8)	
	2から3日に1回	212(34.9)	584(32.6)	796(33.2)	
	週に1回	28(4.6)	70(3.9)	98(4.1)	
	ほとんど食べない	32(5.3)	49(2.7)	81(3.4)	
	計	607(100)	1,792(100)	2,399(100)	
豆類	日に2回以上	41(6.8)	121(6.8)	162(6.8)	
	日に1回	280(46.2)	757(42.4)	1,037(43.3)	
	2から3日に1回	211(34.8)	719(40.2)	930(38.9)	
	週に1回	55(9.1)	144(8.1)	199(8.3)	
	ほとんど食べない	19(3.1)	46(2.3)	65(2.7)	
	計	606(100)	1,787(100)	2,393(100)	
乳類	日に2回以上	360(59.2)	1,098(61.4)	1,458(60.9)	
	日に1回	178(29.3)	510(28.5)	688(28.7)	
	2から3日に1回	52(8.6)	137(7.7)	189(7.9)	
	週に1回	13(2.1)	28(1.6)	41(1.7)	
	ほとんど食べない	5(0.8)	15(0.8)	20(0.8)	
	計	608(100)	1,788(100)	2,396(100)	
野菜	日に2回以上	292(48.1)	807(45.2)	1099(45.9)	
	日に1回	229(37.7)	701(39.2)	930(38.9)	
	2から3日に1回	50(8.2)	166(9.3)	216(9.0)	
	週に1回	5(0.8)	28(1.6)	33(1.4)	
	ほとんど食べない	31(5.1)	84(4.7)	115(4.8)	
	計	607(100)	1,786(100)	2,393(100)	

Mann-Whitney 検定 *$p<0.05$

一つとして推察される。

母に既往歴がある場合には子供もアトピー性皮膚炎の既往を持つ割合が高かった。このような結果は他の報告でもしばしばみられる[2,3,6]。アトピー性皮膚炎はアトピー素因のあるものに生じ，アトピー素因とは気管支喘息，アトピー性皮膚炎，アレルギー性鼻炎の病歴または家族歴を持つもの[7]とされいることと，今回の結果は矛盾しない。

生活習慣と既往歴の関係では既往歴のあるも

のに朝起きるのが遅いものが多かったが，この理由としてアトピー性皮膚炎による掻痒感のため熟睡できないことが推察された。また，屋外で遊ぶ時間については既往歴があるものに「30分未満」と答えたものが多い傾向にあった。この理由として，アトピー罹患児はアトピー性皮膚炎症状そのものが，身体活動を消極的にさせ屋内にいる時間が長くなったという考え方，逆に，屋内にいる時間が長いということが，室内のダニやカビ抗原の暴露をうける危険性を高め，アトピー性皮膚炎の既往歴に影響したという考え方，等があげられる。

食品の摂取頻度と既往歴の関係では，今回，既往歴のある子供において卵の摂取頻度が有意に少なかった。この理由として，食物制限が考えられる。近年，アトピー性皮膚炎の発症予防に関心が高まり，食事制限が医療機関の指示によらず，自己流に行われていることがH4厚生省実態調査で明らかとなった。特に既往歴がある子供は既往歴のない子供よりも食事除去の割合が高いと報告されており，これが卵の摂取頻度に影響したと推測される。一方，魚の摂取頻度が既往歴のあるものに有意に高かったことは興味深い。幼児の摂取食品を変容させることは，例えば幼児の生活リズムを変えることと比べ，母親の考えで実行しやすい。近年，肉類より魚類の方が健康のために推奨されるようになったこと，特に，いわし，さば，あじ等のエイコサペンタエン酸を多く含む青背の魚を積極的に摂取することはアレルギー予防に有用であるといわれているが[8]，こうしたことが，今回の結果に影響している可能性がある。

今回の調査で，睡眠や屋外での遊び，魚や卵の摂取状態と既往歴との関係が認められたが，今後はこれらの項目についてより詳細なアンケート調査票を作成し，検討する予定である。

本研究の一部は第42回東海公衆衛生学会で発表した。

参考文献

1) 鳥居新平，坂本龍雄，井口淑子．環境因子とアトピー性皮膚炎．小児内科 1995；27(5)：647-650.
2) 三河春樹，有田昌彦，飯倉洋治，他．平成4年度アトピー性疾患実態調査結果の概要．厚生省児童家庭局母子衛生課．アトピー性皮膚炎生活ハンドブック．東京：南江堂，1994：60-98.
3) 岸田 勝，笹本明義，斎藤誠一，他．島根県における乳幼児アレルギー性疾患保有率についてのアンケート調査．日本アレルギー学会誌 1993；7(1)：34-38.
4) 松本修一，栄花芳典，請井智香子，他．学童期アトピー性皮膚炎の疫学的研究．藤田学園医学会雑誌 1986；10(2)：97-102.
5) 竹内宏一．小児期からの成人病予防への公衆衛生的アプローチ．公衆衛生 1992；56(11)：755-758.
6) 浅野みどり，杉浦太一，石黒彩子，他．A幼稚園におけるアトピー性皮膚炎の検診．小児保健研究 1994；53(6)：835-841.
7) 荒田次郎，矢尾阪英夫，市橋正光，他．日本皮膚科学会「アトピー性皮膚炎診断基準」について．日本皮膚科学会雑誌 1994；104：176-177
8) 伊藤節子．小児のアトピー性疾患発症予防をめざした，妊婦，母乳栄養中の母，乳児の栄養法．小児内科 1994；26：213-219.